

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病虫害発生予察情報について

平成28年度農作物病虫害発生予報第5号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病虫害発生予報第5号

平成28年7月19日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 葉いもちの発生圃場率が60.0%, 発病度が5.3で, 平年(23.7%, 1.5)に比べて高い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い圃場では, 使用基準を確認の上, 液剤による薬剤防除を出穂直前までに行う。
- (2) 窒素質肥料を過用しないこと。特に, 出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので, 穂肥, 実肥の施用時期・量に注意する。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生圃場率が50.0%, 発病度が3.5で, 平年(11.2%, 0.8)に比べて高い。
- (2) 水稻の生育は平年並である。
- (3) 7月14日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して, 上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生圃場率が75.0%と, 平年(53.2%)に比べてやや高めの発生で, 株当たり虫数は0.69頭と, 平年(0.15頭)に比べて多い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。特に, 苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では, 適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では, 誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期には, 発生圃場率が0.5%, 株当たり虫数が0.00頭)。
- (3) 7月14日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。特に, 苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では, 適期防除に努める。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生圃場率が45.0%, 被害株率が7.4%で, 平年(6.6%, 0.7%)に比べて高い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除が遅れると幼虫による葉の食害がすすむので, 今後の発生に十分注意し適期防除に努める。

斑点米カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では, 20地点のうち14地点で生息を確認した。捕獲地点率が70.0%, 1地点当たりの捕獲虫数が7.2頭で, 平年(62.5%, 8.4頭)並の発生である。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない**)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

普通期水稻

いもち病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が53.3%、発病度が5.3で、平年(23.7%, 1.9)に比べて高い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場において、いもち病の発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。また、その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行う。
- (2) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤は出穂10日前までに、液剤は出穂直前までに防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行うとともに、穂肥の施用量は控えめとする。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が10.0%、発病株率が1.6%で、平年(8.3%, 1.3%)並の発生である。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が83.3%、株当たり虫数が0.5頭で、平年(49.6%, 0.2頭)に比べて多めの発生である。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場で

は、適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では、誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が0.3%、株当たり虫数が0.00頭)。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

斑点米カメムシ類(アサスジカスミカメ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、30地点のうち23地点で生息を確認した。捕獲地点率が76.7%、1地点当たりの捕獲虫数が6.2頭で、ほぼ平年(65.6%、10.4頭)並の発生である。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない**)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ, ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が100%、被害度が11.5で、ほぼ平年(86.7%、8.2)並の発生である。
- (2) 6～7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4圃場の平均)は、ハスモンヨトウでは、6月第4～5半旬にかけて平年より多く推移したが、7月第1半旬以降、平年並に推移している。シロイチモジヨトウでは、ほぼ平年並に推移している。ただし、6月第4～5半旬にハスモンヨトウの誘殺数が多かったことより、7月第4半旬以降、次世代幼虫の発生が多くなると考えられる。
- (3) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
6.3	65	90	23	31	31	39	18	21	67	19
6.4	227	36	23	102	35	39	31	36	106	33
6.5	153	39	26	80	40	26	47	27	42	25
6.6	69	46	11	55	40	11	53	15	22	24
7.1	47	23	8	19	41	16	11	32	73	30
7.2	21	22	10	20	42	70	20	63	141	58
7.3		15	16	43	44		151	50	305	117

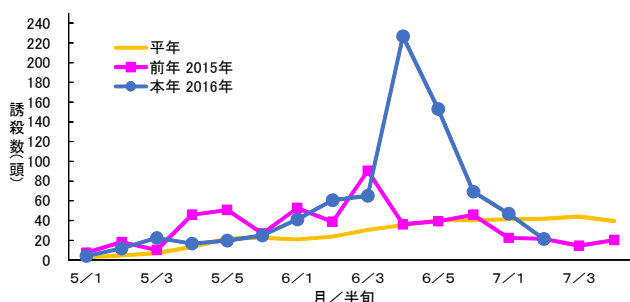


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
*徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

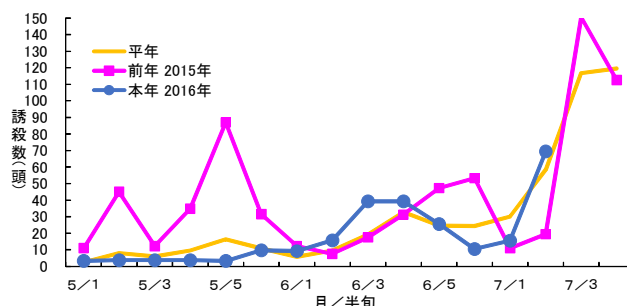


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
*徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が 6.3%, 寄生葉率が 0.1%で、平年(44.2%, 4.7%)に比べて低い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が87.5%で、平年(60.6%)に比べてやや高めの発生であり、寄生葉率は17.6%で、平年(6.3%)に比べて高い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が25.0%で、平年(5.5%)に比べて高めの発生であるが、発病葉率は0.4%で、平年(0.3%)並の発生である。また、発病果率は0.3%で、平年(0.0%)に比べてやや高い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生にはやや助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病原菌は、25℃以上では発生が抑制されるが、降雨が多いと感染が拡大し、夏期でも発病するため、本病発生圃場では、薬剤による追加防除を行う。
- (2) 秋季(10～11月)にはりん片感染が盛んになり、翌年の伝染源となるため、特に発生圃場では、秋季防除を行う。
- (3) 罹病葉、落葉は伝染源となるため、集めて土中に埋める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病葉率が1.3%で、平年(15.6%、1.4%)並の発生である。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣るので、薬剤散布時には、展着剤を加用する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%で、平年(65.1%)に比べてやや低めの発生であるが、寄生葉率は4.2%で、平年(4.5%)並の発生である。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、散布むらのないように丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が7.8%、寄生新梢率が0.2%)。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なく見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、寄生葉率が1.9%で、平年(34.6%、3.4%)に比べてやや低い。
- (2) 7月14日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なく見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。